

1 熊本県教育委員会が実施している「人権教育の推進に関する教職員アンケート調査」



(1) 10年間で見られる傾向

① 成果

人権課題への関心は全体的に高まっている

- ア ハンセン病問題
- イ 水俣病をめぐる人権問題
- ウ 障がい者の人権
- エ インターネットによる人権侵害
- オ 性的指向・性自認

② 課題

知識は向上しているが、実践への自信には課題が残る

- ア 「知っている」「理解している」という回答は増加。
- イ 「授業でどう扱うか」「差別事象への対応をどう行うか」については、継続した研修の必要性が指摘

(2) 新しい人権課題への対応

- ① SNS やインターネット上の誹謗中傷
- ② 性的マイノリティに関する理解
- ③ 多文化共生

など、10年前には十分扱われていなかった課題への関心が高まっている。

2 まとめ

10年前と比べると教職員の人権に関する知識や関心は確実に高まっています。しかし、人権教育は「知っている」ことがゴールではありません。子どもたち一人一人が大切にされる学級や学校をつくるために、学んだことを日々の教育実践にどう生かすかが問われています。

本日の研修は、講義を聞いて知識を得るだけの研修ではなく、互いに考えを交流し、自ら感じ、考える**参加体験型の研修**でした。

以下の3つは、私たちが子どもたちに育みたい力です。

- 相手の思いを読み取る力
- 自分事として考える力
- 多様な考えを尊重しながら協働する力

参加体験型の研修は、そうした力を私たち自身が体感しながら学ぶことができる点に大きな価値があります。

今年は、水俣病公式確認から70年という節目の年です。

人権について「知っている」だけで終わるのではなく、「感じる」「考える」「行動する」ことにつなげていくことが求められています。

本日の学びを、それぞれの学級経営や授業づくり、そして子どもたちとの日々の関わりの中で生かしていくことが「つながる教育・つなげよう実践」の目指すものです。

参考資料

人権教育の推進に関する教職員アンケート調査報告書
令和7年3月 熊本県教育委員会



人権教育の指導方法等の工夫・改善パンフレット

「実践行動につなぐ」授業への3つのアプローチ

令和8年度版

基本的人権教育キャラクター・ココロ

視点1

たてる

視点2

つくる

視点3

つなぐ

県教育委員会では「同和問題(部落差別)※に関する学習状況調査」の結果を踏まえ、「自他の人権を大切に
する実践行動のできる児童生徒の育成」を目指した指導資料を作成しました。作成に当たっては、「学校における
人権教育の推進に関する検討会議(外部委員10人)」を設置し、人権教育の指導方法等の工夫・改善をテーマに
協議を重ねたものです。本資料の活用を通して、各学校における人権教育の推進の一助になれば幸いです。

実践行動 とは… 他の人とともによりよく生きようとする態度や集団生活における規範等を尊重し義務や責任を
果たす態度、具体的な人権問題に直面して解決しようとする行動のこと。[第三次とりまとめ]



- 差別はいけないことだと分かりました。
- 困っている人がいたら、声をかけたいです。
- 差別やいじめのない学校になってほしいです。

課題



授業の終末ではこのような発言をよく聞きます。人権の大切さや差別
するおかしさについて理解しているものの、差別やいじめに直面したと
きに、実際の行動に移すことができていますでしょうか。

視点1 たてる



- 児童生徒の自尊感情や自己肯定感を高めたいね。
- 相手の意見を肯定的に捉える児童生徒になってほしい。そのために必要な活動は今のままでいいかな。
- 個別的な人権課題の学習では、学年間の系統性(縦)や各教科等との関連(横)を考える必要があるね。
- 使用教材の見直しは必要ないか、昨年度の実践記録を参照して検討しよう。

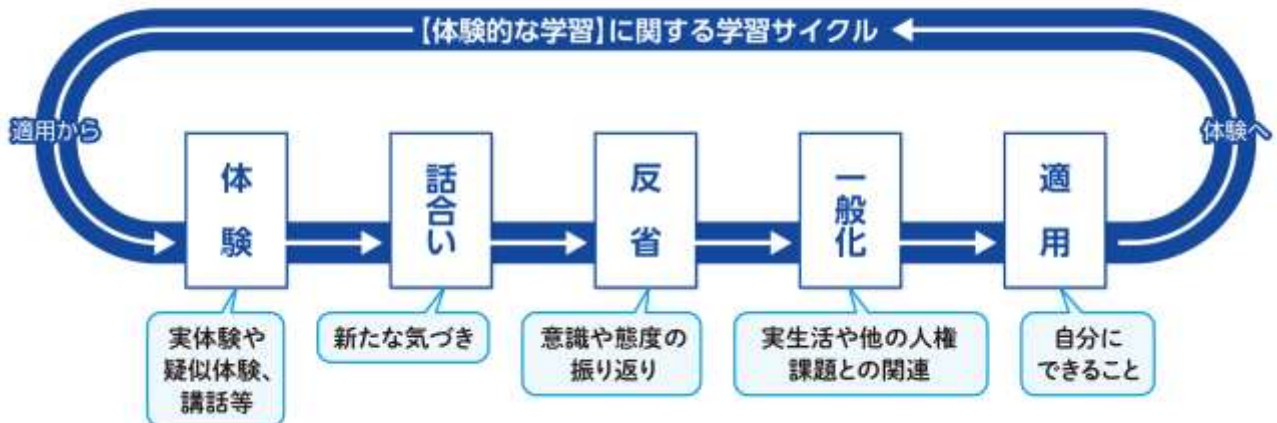
教材の読み取りに終始する授業ではなく、児童生徒
に自分のこととして考えさせるために、「教材を教える」
のではなく、「教材で教える」ことが大切です。



視点2 つくる

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

児童生徒が、主体的に、他の児童生徒とともに学習活動に参加し、協力的に活動し、体験することを通して人権感覚は身に付きます。これは、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善にもつながります。また、ICT機器の利点をいかした学習により、さらに深めることが可能となります。



自分のこととして考えさせる



・なぜそんな行動(いじめ)をしたのだろうか？
・知らんぷりした経験はないかな？

・先生にもこんな経験があったよ、みんなはどうかな？
・いじめをなくすには、自分ならどうする？

他の人権課題と関連付ける

新型コロナ
ウイルス感染症



他の人権課題

感染者やその家族などへの偏見や差別、SNSでの書き込みなどは、心を傷つけているよ。

医療従事者への誹謗中傷も、同じだね。正しく知らないから偏見が生まれると思う。

部落差別や水俣病、ハンセン病問題でも正しく知る大切さを学んだね。

これからの行動を考えさせる

「今日学んだことをいかすにはどうしたらよいだろう。」「自分にできること、クラスでできることは何か、考えてみよう。」等の発問で、学習した内容を日常の実践行動につなぎましょう。

視点 3 つなぐ

身の周りの様々な課題を考えさせることで自分の日頃の言動を振り返ることができます。

また、解決しなければいけない課題と分かっている、実際に行動できなかったこれまでの自分に気付くことも今後の実践行動につながります。



・休み時間や部活動で、トラブルが起きています。あなたはどのようにする？
・クラスや学校でできることは？



・生徒会で決めた人権宣言を守っている？
・学習と同じような場面があったけれど、どのように行動した？

授業構想メモ ※児童生徒の実態に応じて活用ください。

- 1 児童生徒の実態、地域の実情 (例：アンケート結果、生活課題、家庭訪問等で把握した児童生徒、保護者の願い 等)
- 2 授業後の姿、育てたい資質・能力、題材から学ばせたいこと (例：解決方法を考え・実行する、多様性を肯定的に捉える 等)
- 3 課題意識を持たせる導入の工夫 (例：学級の同じ場面を想起させる。他の人権課題での学習内容と関連 等)
- 4 「自分のこと」と捉えさせ、主体的な学びにするための工夫 (例：過去の経験や行動できなかった背景を考える 等)
- 5 実践行動につなげるための工夫 (例：振り返りの場面設定、合意形成の場面設定、ロールモデルの提示 等)
- 6 授業後の実践行動の見取りの工夫 (例：観察、日記等の作品、施設訪問学習との関連、他の人権学習の導入で提示 等)

児童生徒が様々な人権問題を自分の課題として捉えるためには、教職員自らが人権問題を自らの課題として捉え、全ての教育活動を通して人権教育に取り組む必要があります。自分のためになったと児童生徒が実感でき、自己実現に向けて展望が持てる学習になるよう、本資料を活用し、お互いに学び合いながら継続的に取り組んでいきましょう。